



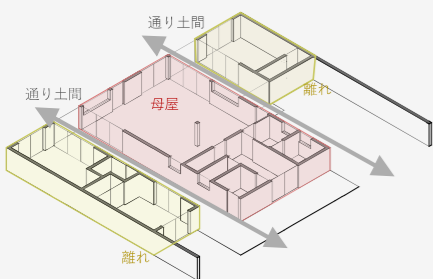
～家族の成長と共に  
長い間暮らすことができる家～

それは、環境の変化・家族の変化  
に対応し、形を変える住まい。  
その可能性を日本古来の「離れ」  
に探りました。

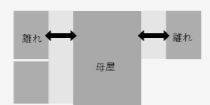
母屋と離れをひとつの大屋根で  
覆えば、離れたい時・繋げたい  
時に、おおらかに空間を変えられ  
ます。  
繋ぎ廊下は単なる通路ではなく、  
風と光が抜ける居場所にするこ  
とで、猛暑や雪の時期には子ども  
が遊べる通り土間に。

日々の生活も、そして30年後も  
快適に暮らす。  
家も、人も、無理なくしなやかに  
ライフスタイルや気候の変化に  
適応している住まいです。

## "離れ"、つながる ひと屋根のくらし



心地良い距離感にあわせる



家の核となる主要な室を母屋とし、  
可変的な【書斎・客間・祖母の部屋】  
を離れとした。  
母屋と離れは、土間を通して繋げること  
ができ、使う時にちょうど良い距離感を  
つくりだせる。

季節の変化にあわせる



母屋と離れの間は土間になっていて、  
夏は開け放して風を通し、  
冬は閉め切ってサンルームのように  
日光を取り込む。

家族の変化にあわせる



今は、母屋と離れの家全体を  
家族で使用する。

家族形態や仕事が変わった場合は、  
母屋は家族の住居として、  
離れは賃貸や地域への開放、子ども  
たちの里帰りなど、フレキシブルに使用  
する。  
減築・増築をせずに居住空間の拡大縮小  
に対応し、空き部屋を有効活用できる。



南から見たリビング。土間の吹き抜けから光が入る。明るく開放的な空間



新ストーブの後ろに設けられた大窓。ヒノキの壁が空間のアクセントに



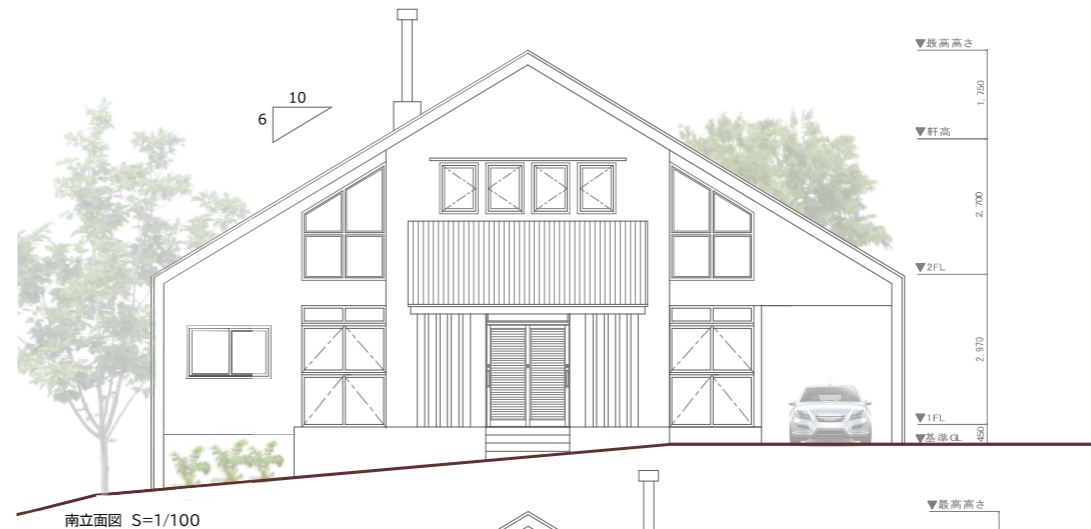
通り土間：明るく、ヒノキの香りに包まれる



母屋→祖母の部屋：開口部でつながり、家族の気配を感じられる

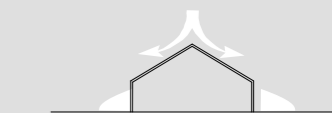


北外観：メインの開口は北で、山と川の眺望を楽しむ



南立面図 S=1/100

面で支える大屋根



雪が左右に落ちる6寸勾配の切妻屋根。  
積もった雪による劣化を抑えるため、側面まで  
ガルバリウム鋼板で覆う。  
大きな軒の出を、左右の面で支える。  
側面には窓を設けず、開口部は南北と通り土間に  
面する部分のみ。

雪国のかまくらをイメージした家。  
雪深い時期には、通り土間や軒下菜園を  
冠代わりに、快適な冬ごもりを楽しむ。

軒先と通り土間の壁は京都府産の  
ヒノキで仕上げる。  
各部屋は通り土間に繋がっているため、  
どこで過ごしていても木のぬくもりを  
感じられ、家全体がヒノキの香りに  
包まれる。

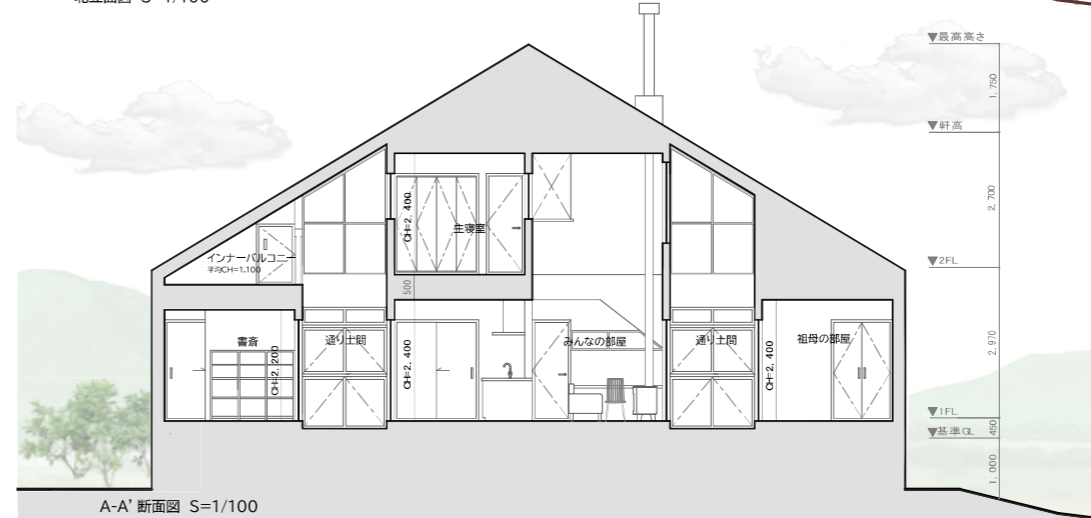


北立面図 S=1/100

季節を呼び込む窓



通り土間の南北に各1対  
設けられた大きな窓は、全面  
開閉可能なガラスの水平  
折戸。  
部戸のように上に向けて  
開け放せば、人も風も自  
由に通り抜けられる。  
冬は閉め切って通り土間  
も室内のように使い、春  
の訪れとともに開け放  
す。生活の中に四季の巡  
りを取り入れる。



A-A' 断面図 S=1/100

断面計画

書斎となっている離れの上層、小屋裏空間のような  
インナーバルコニーは読書にぴったりの秘密基地。  
心地よい季節には、この小さな空間を独り占めして、  
ゆったりと読書に集中できる。  
時々、お酒を片手に景色を楽しむのも、ささやかに  
贅沢な時間。



計画概要

敷地面積：587.96㎡  
延べ面積：192.03㎡  
(ビルイン Garage 33.12㎡含む)

構造：木造在来軸組工法  
階数：地上2階建て  
最高高さ：7.87m

外部仕上げ：屋根：ガルバリウム鋼板  
外壁：ガルバリウム鋼板、カラーモルタル吹付仕上げ  
内部仕上げ：床：スチフロリング、土間コンクリート金網入り  
壁：ヒノキ板張り、大谷石張り、漆喰塗り  
天井：ヒノキ板張り、漆喰塗り

